

中期目標の達成状況に関する評価結果

申立ての内容	申立てへの対応
<p>【評価項目】 (I) 教育に関する目標 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標 <特記すべき点> (改善を要する点)</p> <p>【原文】 「大学院説明会の充実や海外在住者対象推薦入学特別選抜の導入等、多様な人材を受け入れる取組を積極的に行っているものの、博士後期課程の標準修業年限内修了率を高めるための施策については、改善に向けた取組が十分にはなされていない。」</p> <p>【申立内容】 削除願いたい。</p> <p>【理由】 本学では博士後期課程における標準修業年限内での修了を促進するため、次のような取組を実施し、その結果、博士後期課程の標準修業年限内での学位授与率は、平成27年度において59.3%となり、平成22年度と比べて29ポイント上昇した。</p> <p>1 5年一貫教育プログラムの整備 前期・後期を連携させた5年一貫教育プログラムである5Dプログラムを整備し、学生が効率的に自らの研究課題を探求できる教育課程を編成した（達成状況報告書7頁）。</p> <p>2 博士後期課程の到達目標の明示 ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、研究室教育ポリシーの策定を通じて、博士後期課程において身に付けるべき能力を学生に明示し、自律的な研究活動を支援した（達成状況報告書9頁）。</p> <p>3 複数指導体制の充実</p>	<p>【対応】 原案のとおりとする。</p> <p>【理由】 意見の内容は、複数の中期計画に係るものであり、当該中期計画についての達成状況報告書等からは確認できない。</p>

開学以来実施している複数教員指導制により、個々の学生にきめ細かな研究指導を実施するとともに、新たに「学修計画・記録書」（学習ポートフォリオ）を導入し、学生の研究指導に活用した（達成状況報告書12頁）。

4 成績評価基準の明示

学生に研究・学習上の指針を与えるため、「達成目標に基づく成績評価に関するガイドライン」を定め、科目ごとの達成目標をシラバスに明示した（達成状況報告書18頁）。

5 FDを通じた研究指導方法の改善

研究室教育の質をFDのテーマとして取り上げ、教員に対し円滑な学位授与に向けた指導の在り方や改善事例等を周知した（達成状況報告書27頁）。

6 大学独自の奨学金の充実

本学独自の給付奨学金と雇用型支援制度の見直し・充実を図り、学生が経済的な不安から解放され、学修・研究活動に専念できる環境を整備した（達成状況報告書35頁）。

以上のとおり、本学は博士後期課程の標準修業年限内修了率を高めるための取組を十分に実施しており、これらの取組を通じて博士後期課程学生の学位取得に向けた研究活動への支援を充実させた結果、博士後期課程の標準修業年限内での学位授与率は、厳格な成績評価や学位審査を行っているにも関わらず上昇していることから、原文の「改善を要する点」を削除願いたい。